

# 既成の枠にとらわれない学びの場を創る —箕面こどもの森学園— (前編)

2019年9月に箕面こどもの森学園を訪問した。ここは既存の学校とは異なる教育方法を採用している、オルタナティブスクールと呼ばれる学校である。この学園と箕面市国際交流協会は距離的に近いこともあってこれまでにいろいろな関係があった。今回はこのユニークな学園を紹介してみたい。全体的なことについてはスタッフの藤田美保さん(校長)、高原麗奈さんに伺い、また、中学生お二人(辻岡こころさん、白川岳翔さん)には主としてフィリピン研修旅行についてお話を聞いた。(鷲尾・荻野)



## ■学園のこれまでと現況

既存の学校のあり方に疑問を持ち、子どもの主体性を尊重する学校を市民が集まって設立した。教育方法としては現在世界的に行われている多様な学びの方法から、フレネ教育<sup>\*1</sup>を選んだ。それをベースに教育方法やカリキュラム作りなどの準備を進め、2004年に箕面市内の1軒の民家を借り7人の子どもで「わくわく子ども学校」を立ち上げた。2009年に現在の小野原西に新校舎を建設し移転した。開設時から積み重ねてきた教育実践がユネスコのESD<sup>\*2</sup>に合致すると認められ、2015年にはユネスコスクールに認定された。同年、税制上の優遇措置の受けられる

認定NPO法人<sup>\*3</sup>にもなった。また、保護者からの要望もあって中学部が立ち上げられた。オルタナティブスクールの全国的なネットワークにも加盟し、2016年にはESD重点校(全国で24校あるサステナブルスクール)に選定され、海外での会議や視察にスタッフが参加できるようになった。さまざまなイベントなども「学校を知ってもらうため」というよりは、「持続可能な社会を作るため」に行うようになっていった。

この学園には現在のところ小学生45名、中学生12名が通学している。実際にはどのような教育活動が行われているのか。中学1年~3年生クラスの学習の一部を見学させ

時間割(中学部)					
	月	火	水	木	金
9:00-9:20	ハッピータイム				
9:20-10:00	W.O.	英語B/基礎	英語A/基礎	英語B/基礎	日本語共同/基礎
10:10-10:50		英語A/基礎	英語B/基礎	英語A/基礎	W.O.
11:00-11:40	スクールワーク	数学A/数学B	英語選択/基礎	数学A/数学B	
11:40-12:00	ミニ講座	ミニ講座	ミニ講座	ミニ講座	ミニ講座
12:00-13:00	昼休み				
13:00-13:50	日本語共同	フジ外/選択	自主学習	全校集会	学習計画
13:55-14:45	プロジェクト	プロジェクト		プロジェクト	共同プロジェクト
14:50-15:40	/スポーツ	/選択	ミーティング・雑談	フジ外/音楽	
15:40-16:00	ミーティング・掃除			ミーティング・掃除	
基礎学習：日本語・数学・英語を自分の立てた計画に従って学ぶ学習方式 W.O. (ワールドオリエンテーション)：1つのテーマについて調べ討論を行い、多角的に学ぶ学習方式					

ていただいた。行われていたのは、これから研修旅行に行く韓国の日本との歴史的な関わりについてであった。生徒からは、難しい課題であったが自分自身でしっかり考え言葉にしていこう、との姿勢が強く感じられた。

この学園では、小学1~3年が低学年クラス、4~6年が高学年クラス、中学は1~3年が1つのまとまりとなっており、学年で進度の異なる数学や英語などを除いてはそのまとまりで進めていくことが多い(全学習の6割を占めている)。時間割では、週1回全校やクラスでの集会有り、さまざまなことを全員で意見を出し合って決めていく(多数決で決めることはしない)。

同校はいわゆる一条校(学校教育法第1条に掲げられている学校)ではないため、全員が地元の公立小中学校に籍を置きながらこちらの学校に通学している。箕面市以

外から通学している人の方が多い。遠くは滋賀県や京都府から通学。もっと遠くから引っ越してきて通学している子もいる。学園の自由な教育が気に入られ、日本以外の国籍やダブルルーツの子どもたちも多い。ユネスコスクールに認定されてからは海外の学校との交流が多くなった。また、韓国の高校生がインターンとして2ヶ月ほど滞在するなど、海外からの研修も受け入れている。学園の教職員の海外研修も行われるようになり、例えば高原さんは2019年にインドのオルタナティブスクールで2ヶ月間研修を受けた。2017年には全世界のユネスコスクールが同時期に「気候変動」について考える取り組みがなされ、全生徒が参加した。

オルタナティブスクールは増えつつあるものの、日本では現在のところ財政面での公的なバックアップを受けられる状態にはなっていない。オルタナティブスクールのような考え方はほかの学校にも少しずつ取り入れられつつあり、公立校や公的機関からを含め見学者は多い。財政的には厳しくもあるが、理念に賛同する保護者、スタッフに支えられている。(次号に続く)

◆◆◆◆◆  
みんなで創るミライの学校  
21世紀の学びのカタチ  
(築地書館・2019年)  
辻正矩・藤田美保・  
守安あゆみ・佐野純 [著]  
◆◆◆◆◆

箕面こどもの森学園の常勤スタッフ4名による共著。学園の創立の経緯や教育について詳しく書かれている。

<sup>\*1</sup> フレネ教育：フランスのセレストン・フレネ(1896-1966)が始めた教育。大人の思考を押しつけず、子どもの個性を尊重し、一斉授業より個人学習を重視し、個人・個性を発達させる。同時に様々な自治的な協働作業を通じて人間的交流を深め、共生の在り方を学ばせる。

<sup>\*2</sup> ESD: Education for Sustainable Development: 持続可能な開発のための教育  
ESDの意味するところについて藤田さんは「地球を本当の意味で持続可能にするにはエネルギーとか気候変動のことは大事だが、本当に実現するには市民同士の対話や協力などが不可欠。環境だけではなく、教育を通じて持続可能な社会をつくる人間のあり方を学んでいく必要がある。多文化共生もESDの中のととても大事な軸の一つ」と話された。

<sup>\*3</sup> 学園の活動が箕面市の外へも大きく拡大したことから2019年11月に法人名を「コクレオの森」へと変えた。コクレオは共創を意味し、英語のCo(共に)とエスペラント語のクレオ(kreo)「創る」を合わせた造語。